

# 男女230人猛ダッシュ! 「津波伝承 女川復幸男」

## 女川復幸祭2017



高台を目指して坂道を駆け上がる参加者。「復幸男」には翌19日の「女川町復幸祭」のはじまりの鐘を鳴らす権利が与えられる=3月18日、女川町中心部(2017.3.19 河北新報 ONLINE NEWS)

(河北新報、ZET(ほか) 東日本大震災の津波で大きな被害を受けた女川町で3月18日、「女川町復幸祭2017」の前日祭として、高台へ駆け上がる速さを競う「津波伝承 女川復幸男」(女川町復幸祭実行委員会主催)が開催され、男女約230人が自慢の脚力を競った。

これは津波避難の教訓を伝承しようと2013年に始めた取り組み。町に津波が到達した午後3時32分、「逃げる!」の掛け声でJR女川駅近くから一斉にスタートし、高台にある小学校までの約300m、高低差25mの坂を駆け上がった。

1位でゴールし、女川復幸男を射止めたのは、仙台育英高3年の斉藤壮太さん(18)「石巻市」。陸上部に所属していた斉藤さんは「津波を経験した者として1位を取りたかった。早く逃げる姿を見せることで教訓を伝えたい」と話した。

we support!  
**RQ**  
災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒龍を送ろう! 大作戦しんぶん」改め  
復興支援『すけさきた』  
かめばいん

「すけさきた」とは  
宮城県登米市あたりの言葉で  
「ボランティアに来たよ」という  
意味である

MAY  
**11**  
2017



何か大事なことを後世に伝えるとき、人々は「祭り」という手段をとってきました。

「津波が来たら高台へ走って避難する」。これは津波から逃げるための基本です。

それを伝えたい、後世に残したい。

そうして生まれた企画が「津波伝承 女川復幸男」です。

ヒントとなったのは、兵庫県西宮神社の恒例神事「十日戎(とおかえびす)開門神事福男選び」でした。

午前6時、表大門が開かれると、待っていた参拝者たちは230m先の本殿へ「走り参り」をします。そして最も早く本殿にたどり着き、神主に抱きついた人から3人目までが、その年の「福男」となります。

復幸祭実行委員会は、この神事を模倣させてほしいと西宮神社に申し出ました。

「福男選び」に似たイベントは全国にいくつもありますが「マネさせてほしい」と真つ正面から申し出てこられたのは、実は女川町さんが初めてでした(笑)

とおっしゃるのは、西宮神社十日戎開門神事講社の議長である平尾亮さん。

「私たちも阪神大震災のときは全国の皆さんからたくさん支援をいただき、神事も続けることができました。その恩返しでもあり、私たちの「福男選び」の神事が、女川の皆さんに福を届けるお助けになるのなら、ぜひということで協力させていただくことになりました。むしろこういう機会をいただけて嬉しいです」

こうして西宮神社公認のもと、「女川町復幸祭2013」において最初の「津波伝承 女川復幸男」が開催されたのです。



上: 祈りをこめて疾走 下: 鐘を鳴らす「復幸男」(2016 女川町復幸祭実行委員会)

「津波が来たら高台へ逃げる、という津波避難の基本を、何かの形で後世へ伝え続けたい...一過性のイベントではなく年中行事として続けていき、100年続けて貞観、慶長の大津波伝承と同じく、女川町の民俗伝承となるよう育てていきたいとの思いから、この「祭」を企画致しました。スタート時間も、伝承をきちんと伝えていく為に、あえて女川に津波が到達した午後3時32分に設定しました。「女川町復幸祭2017」実行委員会あいさつより)

トップでゴールした「女川復幸男」は、ガレキの中から見つかり、今では町のシンボルになっている「きぼうのかね」を鳴らす権利を獲得します。復幸男が打ち鳴らす鐘の音が、「女川復幸祭」本祭のはじまりを告げるのです。

どんな伝統行事にも、はじまった瞬間がありました。千年に一度の災害をキッカケにこの祭りは始まりました。千年の未来までも語り継ぐべき「伝承」のはじまりに、私たちは今、立ち会っているのです。

(宮城から感謝をこめて2013「女川町復幸祭実行委員会」抜粋は文責による)